

このデンキがヤバい！ 2018シンポジウム

なぜ大学をパワーシフトしなければならないのか？

2018年12月9日

@AP横浜駅西口会議室

国際環境NGO FoE Japan インターン

天野 遼太郎



《目次》

- ・自己紹介
- ・なぜ“気候変動問題”に関わるのか？
- ・大学パワーシフトの必要性と現況
- ・パワーシフトな未来に向けて

自己紹介、、、

- ・静岡県富士市(旧・富士川町)生まれ。 ※中部電力と東京電力管内の境目
- ・現在、大学4年生の22歳。(小学校時代から2か月前までテニス)
- ・約2か月前(10月上旬)より FoE Japan にてインターン。
- ・来春より再生可能エネルギー発電に特化した事業会社に勤務予定。



〈この先、、、〉

- 海洋再生可能エネルギー発電(波力～マリンバイオマス)の商用化！
- 地元・富士山の麓に市民エネルギーを！

なぜ私は“気候変動問題”に関わるのか？

なぜ「気候変動」なのか？

『過去22年の自分が置かれてきた環境を振り返った時に覚える“感覚”

× 2011. 3. "12"

× 実家の雑糞・水筒』

なぜ「エネルギー転換」なのか？

"地域社会ベースの自給自足生活に人類を回帰させる"

→ その起点となるのが自然エネルギー(地域循環的・分散的)



なぜ大学はパワーシフトする必要があるの？

【その意義は??】

- ・“目に見えにくい”ものとしてのエネルギーに目を向ける機会を。(エネルギーに触れる)
- ・再エネ普及のための地域の拠点の“一部”へ。(市行政・市民電力などとの協働?)
- ・次の“人災”を待たずに社会的気運を高める。

【これまでに見えてきたことは??】

- ・再エネの「コスト」と「安定性」に関する認識を変えていくこと。
- ・大学という組織の意思決定システムを意識すること。
- ・母体となる学生組織を軸に持ち上げていくこと。



青山学院大学・相模原キャンパス



“パワー”を疑え。

パワーシフトの行きつく先が、「再エネ100%」に留まってはならない。
この不条理な世界を所与のものであるかのように錯覚させる”システム
そのものをシフトさせるものでなくてはならない。

●パワーシフトのめざすところ：再エネ100%社会へのシフト・気候変動緩和

●パワーシフトの究極的意義：

現行の“強欲資本主義システム”の変革であり、“パワー”への挑戦

